

# シンポジウム「二次的自然の管理と生物多様性キャンパス戦略」

2012年11月11日(日)14:00～17:00

明治大学生田キャンパス理工学部A館401.402

「広い面積を持つ大学キャンパスの自然は地域のエコロジカルネットワークの中で、重要な役割を持っている。」キャンパスの二次的自然の管理を生物多様性を重点に置き、地域資源として考えるシンポジウムが開かれました。

キャンパス内の自然の保安全管理を中心に生物多様性の理解を深める活動を続けているこなら楽舎里山班代表が、里山管理をおこなっている学生の視点から報告を行いました。



■基調講演 日本の大学と明治大学の現状報告  
農学部教授 倉本宣

## ■報告

- ・里山管理をおこなっている学生からの報告  
こなら楽舎里山班 宮寺宏一  
応用植物生態学研究室 岩田隆典
- ・狭山丘陵の公園における里山管理と生物多様性  
NPO birth 佐藤留美
- ・里山の管理と大学—地域連携  
株式会社グラック 並木崇

■提言 生物多様性キャンパス戦略の勧め  
亀山 章  
(公財)日本自然保護協会理事長

パネルディスカッションでは、大学がキャンパス内やその地域の資源を把握し、地域に向けて発信していく必要があること、計画作りの段階から地域と連携し、周囲と協働する重要性などの意見がありました。



キャンパス内の自然は、「地域環境の財産」で、「持続的に保全活用していく資源」であり、地域の固有性を評価し、地域を活気つけるものになるとまとめました。

亀山先生の提言にある「暮らしと自然の未来像を描く」。今後も、地域や大学関係者と継続的に活発な意見を交わしていきたいと思えます。

主催 明治大学化学技術研究所(応用植物生態学研究室)

後援 公益財団法人 日本自然保護協会 日本造園学会・生態工学研究委員会  
日本緑化工学会・生物多様性緑化研究部会 明治大学生田VCこなら楽舎

2012年11月11日 こなら楽舎 本間